— Ichikawa General Hospital News —

ISSOU

2025.12
Vol.62

東京歯科大学市川総合病院ニュース

発行：東京歯科大学市川総合病院広報委員会

DATA　リプロダクションセンター

●施設認定：生殖補助医療実施医療機関、日本生殖医学会生殖医療専門医制度認定研修施設、日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設B、千葉県小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業指定医療機関

●資格：日本産科婦人科学会専門医3名（指導医2名含む）、日本生殖医学会生殖医療専門医3名（指導医2名含む）、日本泌尿器科学会専門医（指導医）2名、日本周産期・新生児医学会母体・胎児専門医1名、母体保護法指定医師3名、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医1名、日本臨床細胞学会細胞診専門医（指導医）1名、日本がん治療認定医機構がん治療認定医1名、泌尿器腹腔鏡技術認定制度認定医1名

▲リプロダクションセンター

総合病院の強みを活かし、個々に合わせた生殖医療を

黎明期から高度な生殖医療に取り組み 早期にリプロダクションセンターを設置

当院は、1982年に体外受精センターを開設し、国内2例目の体外受精・胚移植（IVF-ET）による妊娠・分娩に成功するなど、生殖補助医療の黎明期から実績を積み重ねてきました。2002年には全国に先駆け、泌尿器科と婦人科をひとつにした、不妊治療専門のリプロダクションセンターを設置。パートナー同士で協力し合い、同時に治療に臨める環境を整えました。2024年には、延べ約5,000人の患者さんが通院され、体外受精（IVF）は、採卵と胚移植を合わせて年間約270件、胚移植1回あたりの着床率は約53%となっています。

不妊治療は、以前は原因疾患がない場合は自費診療でしたが、2022年4月より、人工授精等の一般不妊治療および体外受精・顕微授精といった生殖補助医療（ART）が保険適用となりました。これによって治療にかかる経済的負担が大幅に軽減され、より若い、30歳代の患者さんの受診増加がみられるようになりました。

ただし、ARTの保険適用回数には上限が設けられているため、保険診療の範囲内で妊娠に至らなかった場合には、治療の継続を断念せざるを得ない患者さんもいらっしゃいます。少ない治療回数で成功率を上げるためには、早期受診が重要となり、早い段階からARTを検討していくことが望まれます。

男性不妊症例への高度治療と 総合病院における包括的生殖医療

不妊の原因の割合は、“女性のみにある”41%、“男性のみにある”24%、“男性・女性共にある”24%、“原因不明”11%となっています※1。男性不妊の原因の約８割は、精巣で精子が正常に作られない造精機能障害であり、1割強が勃起不全や射精障害などの性機能障害です。

男性が不妊治療を受ける際は、パートナーとは別の医療機関の泌尿器科を受診する必要がある場合もあります。しかし、当センターには男性不妊専門の常勤医※2が在籍しており、女性不妊治療と並行して、外科的治療を含む高度な男性不妊治療を包括的に行うことができます。

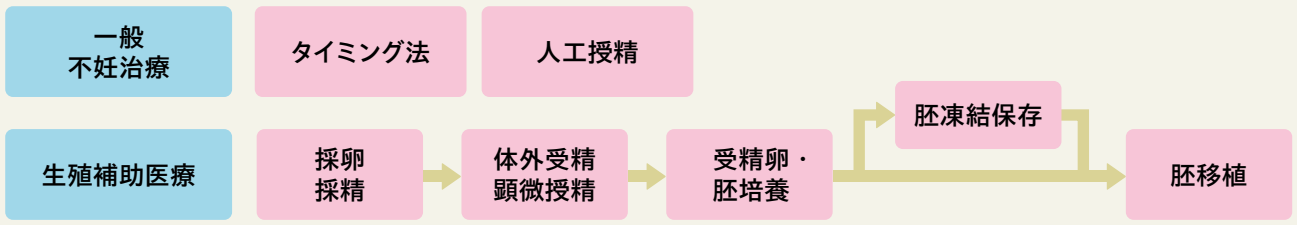
例えば、造精機能障害の原因の約半数を占める精索静脈瘤は、精巣周囲の静脈が拡張し血流のうっ滞を来

※1　WHOによる不妊症の原因調査　※2　日本泌尿器科学会専門医・指導医かつ日本生殖医学会生殖医療専門医・指導医

多因子性の不妊治療や妊孕性温存療法を支える医療を目指して

リプロダクションセンター

■新たに保険適用となった不妊治療の範囲



●生殖補助医療のうち、基本治療に加えて実施されることのある「オプション治療」については、卵子活性化など保険適用されたものや、「先進医療」として保険診療と併用できるものがある。
●生殖補助医療の年齢・回数の要件：治療開始時において女性の年齢が43歳未満であることが前提。初めての治療開始時点の女性の年齢が40歳未満では1子ごとに通算6回まで、40歳以上43歳未満の場合は1子ごとに通算3回まで。

す病態ですが、外科的治療により自然妊娠率の向上が期待できます。精子の通路が閉塞することで起こる閉塞性無精子症には、顕微鏡下で精路をつなぐ精路再建術を実施し、自然妊娠の可能性を高めます。また、射精障害を含む無精子症の患者さんに対しては、精巣内精子採取術（TESE）も行っています。

女性が採卵を行う場合も、当センターでは局所麻酔ではなく、静脈麻酔による全身麻酔を実施し、痛みや不安の軽減に配慮しています。さらに、関係診療科と連携することで、基礎疾患をお持ちの方でも、基礎疾患の治療と不妊治療を総合的に受けられる体制を整えており、複数の医療機関を受診する負担の軽減にもつながっています。

がん治療前の妊孕性温存にも診療科の垣根を越えて取り組む

近年、がん治療の進歩によりがんサバイバーが増加し、若年がん患者さんのQOL向上が重視されています。当センターではこの流れを受け、妊孕性温存療法にも力を入れています。

総合病院の特性を活かして、がんを担当する診療科と緊密に連携することで、妊孕性温存に必要な検査や治療を、がんの治療と並行してスムーズに進めることが可能です。特に院内では乳腺外科との連携が多く、妊孕性温存の準備が整い次第、速やかにがんの治療を再開できる体制を整えております。

このように、妊孕性温存を希望される患者さんの病状を詳細に共有し、治療のタイムロスを最小限に抑えながら、がん治療と妊孕性温存療法の両立を目指しています。また、院内での診療にとどまらず、他の医療機関の皆さまからの緊急の採卵・採精の依頼にも迅速に対応し、患者さんの将来への希望をつなぐ支援に努めています。

不妊治療は「時間との闘い」ともいわれます。早期に治療を開始することで、より効果的な治療計画を立てることが可能です。

将来お子さんを望まれる患者さん、また治療を続けているもののなかなか結果が出ない患者さんがいらっしゃいましたら、お気軽にご相談ください。ご紹介いただいた患者さんのご希望に寄り添いながら、将来お子さんを授かる可能性を少しでも広げられるよう、チーム一丸となって支援してまいります。

Doctor's profiles

リプロダクションセンター センター長
産婦人科部長医師 **内田 浩** Hiroshi Uchida
出身地 東京都
趣味 デザートづくり
医師になったきっかけ
直接目に見える形で誰かの役に立ちたいと感じたから

リプロダクションセンター
泌尿器科医師 **萩生田純** Jun Hagiuda
出身地 東京都
趣味 旅行
医師になったきっかけ
幼少期、腰痛の祖母を治したいと思ったから

医療機関の先生方へ

市川総合病院　初診事前予約申込書　検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者さんのご紹介などを円滑に行えるように、「地域医療連携室」を設置しています。
ご不明な点がございましたら、右記へお尋ねください。

患者支援センター 地域医療連携室
Tel 047-322-0151(内線2214) Fax 047-324-8539
開室時間 月曜日～金曜日：午前 9 時～午後 5 時
土曜日：午前 9 時～ 12 時（第 2 土曜日を除く）